

2021年9月12日～11日

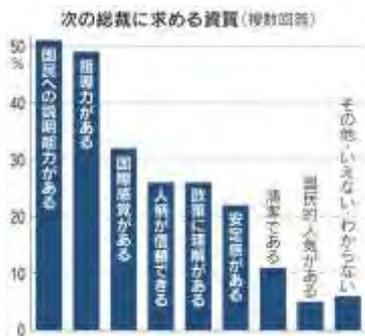
世論調査（日経、朝日）

次の自民総裁の資質 1位「説明能力」 対コロナ発信重視 本社世論調査 2位は「指導力」

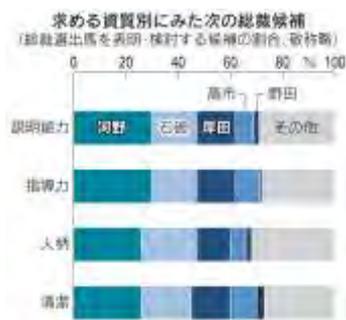
日経新聞 2021年9月12日 1:00 [有料会員限定]



日本経済新聞社の世論調査で次の自民党総裁に求める資質を8つの選択肢から複数回答で聞いた。「国民への説明能力がある」を選んだ人が51%で最も多かった。2番目は「指導力がある」の49%だった。新型コロナウイルス対策を巡る丁寧な発信を求める世論がうかがえる。



調査は「どんな人に次の総裁を務めてほしいか」を質問した。3位以下は「国際感覚がある」32%、「人柄が信頼できる」26%、「政策に理解がある」26%と続いた。「説明能力」を挙げた層が「次の総裁にふさわしい人」で誰を選んだかを分析すると、首位は河野太郎規制改革相の30%だった。2位は石破茂氏（17%）、3位は岸田文雄氏（15%）。



選択肢とした10人の自民党国会議員のなかで高市早苗氏は7%で5位、野田聖子幹事長代行は2%の7位だった。政府の新型コロナ対策については51%が「評価しない」と答えた。この層は求める資質として「説明能力」を選択した割合が58%と全体よりも7ポイント高かった。次期総裁は次の首相に就くのが確実だ。新型コロナ対策となる行動制限や感染対策で国民の納得を取り付ける必要がある。菅義偉首相は9日の記者会見で、意見が割れる政治課題について「私ではできなかったが、国民に説明し理解してもらおうのが政治の役割だ」と強調した。

求める資質で「指導力がある」と回答した層でも次の総裁に河野氏を選んだ人が30%と一番多かった。次点は石破氏（17%）で、

3位以下は岸田氏（15%）、高市氏（9%）の順だった。8月の世論調査で菅内閣を支持しない理由のトップは「指導力がない」の60%だった。民主党政権で東日本大震災後だった2011年7月の菅直人内閣（62%）以来の高さとなった。河野氏は資質に関する8つの選択肢の全てで1位になった。「人柄が信頼できる」や「清潔である」の項目では2位以下の石破氏や岸田氏との差が比較的小さかった。次の総裁に期待する政策を聞くと「新型コロナ対策」が60%で一番高い。この層が「次の総裁」に推した候補は上位から順に河野氏（29%）、石破氏（18%）、岸田氏（15%）だった。期待する政策の2位は「景気回復」で41%、3位は「年金・医療・介護」で36%だった。河野氏は労働分配率を一定以上にした企業に法人税の特例措置を設ける案を唱える。岸田氏は数十兆円規模の経済対策を早期に実行すると提唱する。中間層の経済力を底上げする「令和版所得倍増」も打ち出した。高市氏は物価安定目標2%を達成するまで基礎的財政収支の黒字化目標を凍結すると主張した。憲法改正を挙げた割合は9%だった。この層が選ぶ「次の総裁」は高市氏がもっとも高かった。

衆院選の投票先は自民53%、立民12% 日経世論調査

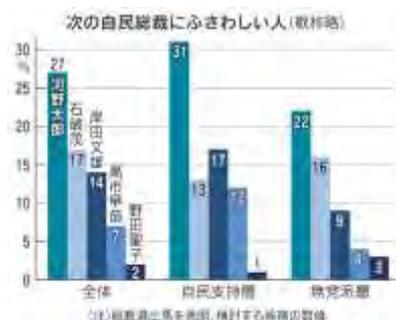
日経新聞 2021年9月12日 1:00 [有料会員限定]

日本経済新聞社の世論調査で、次期衆院選で投票したい政党や投票したい候補者がいる政党について聞いた。首位は自民党の53%で8月から10ポイント上昇した。2位は立憲民主党の12%で8月調査の14%からほぼ横ばいだった。3位は共産党の5%、4位は日本維新の会の4%で、8月はいずれも5%だった。

「次の自民総裁」河野氏27%、石破氏17%、岸田氏14%、高市氏7% 本社世論調査 野田氏は2%

日経新聞 2021年9月11日 20:00

日本経済新聞社とテレビ東京は菅義偉首相の退陣表明を受けて9～11日に緊急世論調査を実施した。事実上の次の首相となる自民党総裁に「ふさわしい人」を聞くと河野太郎規制改革相が27%で首位だった。2位は石破茂氏の17%、3位は岸田文雄氏の14%で、高市早苗氏は7%の5位だった。



総裁選は17日告示—29日投票の日程だ。河野、岸田、高市の3氏が出馬表明した。石破氏是对応を検討中だ。小泉進次郎環境相は10%の4位、安倍晋三氏は6%の6位で、出馬に意欲を示す野田聖子幹事長代行は7位の2%だった。調査は自民党の政治家10人から1人だけ選んでもらう形で聞いた。

た。対象を自民党支持層に絞って分析すると岸田氏が 2 位に浮上し、石破氏が 3 位になった。河野氏と岸田氏、高市氏がそれぞれ全体に聞いた数値より 3~5 ポイント高くなった一方、石破氏は 4 ポイント低くなった。

支持政党がない「無党派層」で見ると首位は変わらず河野氏の 22%で、2 位が石破氏の 16%だった。岸田氏は 9%、高市氏は 4% となった。

総裁選は自民党に所属する国会議員と党員・党友による投票で決める。衆院選を間近に控える今回の総裁選は「選挙の顔」を選ぶ場でもある。国会議員らは世論調査での人気も意識して投票する。菅内閣の支持率は 36%で 8 月の 34%からほぼ横ばいだった。内閣を「支持しない」と答えた割合は 8 月と同じ 56%で、5 カ月連続で支持率を上回った。支持しない理由を複数回答で聞くと「指導力がない」が 50%を占めて最多だった。

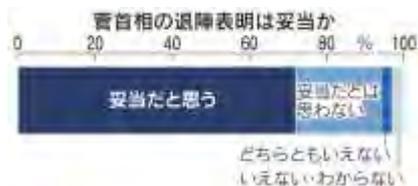
政党支持率は自民党が 8 月から 9 ポイント上昇の 48%で首位。2 位の立憲民主党は 8%で 3 ポイント低下した。支持政党がない無党派層は 31%で 8 月の 33%とほぼ同じ水準だった。

調査は日経リサーチが全国の 18 歳以上の男女に携帯電話も含めて乱数番号 (RDD) 方式による電話で実施し 984 件の回答を得た。回答率は 43.3%だった。

菅首相の退陣「妥当」72%、実績「評価」57% 世論調査

日経新聞 2021 年 9 月 12 日 1:00

日本経済新聞社の世論調査で菅義偉首相が自民党総裁選に出馬せず退陣することへの評価を聞いた。「妥当だと思う」と答えた人が 72%で「妥当だとは思わない」の 22%を上回った。



自民党支持層でも「妥当」が 73%に上り、野党支持層では 79%に達した。安倍晋三前首相が退陣表明した 2020 年 8 月の調査で同趣旨の質問をした際は全体で「妥当」が 88%だった。



首相が 20 年 9 月に就任してから 1 年間の実績については「評価する」(13%)と「どちらかといえば評価する」(44%)の合計が 57%になった。

20 年 8 月の調査で安倍政権の実績を聞くと「評価する」と「どちらかといえば評価する」を足して 73%で、今回よりも 16 ポイント高かった。

日経アーカイブ

日経新聞 2021 年 9 月 12 日

あなたは菅内閣を支持しますか、しませんか。

内閣支持率

36% 支持する

56% 支持しない

政党支持率

48% 自民党

8 立憲民主党

2 公明党

3 日本維新の会

3 日本共産党

1 国民民主党

1 れいわ新選組

30 支持(好意)政党なし

3 NA・わからない

コロナウイルスへの政府の対応

新型コロナウイルスについて、あなたは日本政府のこれまでの取り組みを評価しますか、しませんか。

42% 評価する

51 評価しない

首相退陣への評価

菅(すが)首相は自民党総裁選に出馬せず退陣すると表明しました。あなたは首相のこの判断を妥当だと思いますか、思いませんか。

72% 妥当だと思う

22 妥当だとは思わない

菅首相の実績評価

菅(すが)首相は約 1 年首相を務めました。あなたは菅首相の実績をどの程度評価しますか。

13% 評価する

44 どちらかといえば評価する

27 どちらかといえば評価しない

14 評価しない

0 その他

3 いえない・わからない

57 評価する計

40 評価しない計

次の自民党総裁に求めること

あなたはどんな人に次の自民党総裁を務めてほしいと思いますか。次の 8 つからいくつでもお答えください。

26% 政策に理解がある

32 国際感覚がある

49 指導力がある

22 安定感がある

26 人柄が信頼できる

11 清潔である

5 国民的人気がある

51 国民への説明能力がある

1 その他

5 いえない・わからない

自民党総裁選について

自民党総裁選で、誰が選ばれるのがふさわしいと思いますか。次の 10 人から 1 人だけお答え下さい。

6% 安倍晋三

14 岸田文雄

- 17 石破茂
- 27 河野太郎
- 10 小泉進次郎
- 1 茂木敏光
- 2 野田聖子
- 7 高市早苗
- 16 いえない・わからない

自民党総裁に期待する政策

次の自民党総裁にどのような政策を期待しますか。次の 11 個の中からいくつでもお答えください。

- 60% 新型コロナウイルス対策
- 41 景気回復
- 27 財政再建
- 12 行政・規制改革
- 36 年金・医療・介護
- 27 子育て・少子化対策
- 15 防災
- 30 外交・安全保障
- 9 憲法改正
- 18 地域活性化
- 13 社会のデジタル化
- 0 その他
- 6 いえない・わからない

衆院選の投票先

次の衆院選で、あなたが投票したい政党、または投票したい候補者がいる政党はどこですか。ひとつだけお答え下さい。

- 53% 自民党
- 12 立憲民主党
- 13 まだ決めていない
- 9 いえない・わからない

次の首相に求める在職期間

あなたは次の首相にどれくらいの期間、首相を続けてほしいですか。

- 26% およそ2年くらい
- 31 およそ4年くらい
- 29 それ以上できるだけ長く

2021年09月 回答者数984人

新型コロナ、行動制限緩和に賛成51% 朝日世論調査

朝日新聞デジタル 2021年9月12日 23時30分

11、12日に実施した朝日新聞社の全国世論調査で、新型コロナウイルスの緊急事態宣言が出ている地域でも、ワクチン証明書などがある人には、行動制限を緩めるという政府の案について聞いた。「賛成」は51%と半数を超えたが、「反対」も41%を占めた。

男性は「賛成」が58%で「反対」の37%を上回ったが、女性は「賛成」45%と「反対」46%が並んだ。30代以下の男性の「賛成」が7割近くを占めたのが目を引いた。

コロナに感染した場合、必要な治療を受けられない不安について聞いたところ、「大いに」38%と「ある程度」44%を合わせた「感じる」が82%で、「感じない」は「あまり」13%、「まった

く」4%を合わせて17%だった。30代以下の男性の「大いに感じる」は2割強と少なめだった。

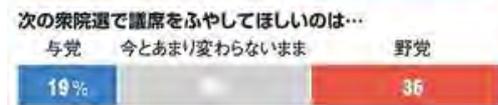
〈調査方法〉コンピューターで無作為に電話番号を作成し、固定電話と携帯電話に調査員が電話をかける RDD 方式で、11、12の両日に全国の有権者を対象に調査した。固定は有権者がいると判明した1042世帯から575人（回答率55%）、携帯は有権者につながった2027件のうち902人（同44%）、計1477人の有効回答を得た。

自民総裁選、河野氏33%、石破氏16% 朝日世論調査

朝日新聞デジタル 2021年9月12日 23時30分



1 自民党総裁室の執務机。卓上には「総裁」と書かれた役職を示す札が置かれている=東京・永田町の自民党本部、上田幸一撮影



朝日新聞社は11、12日に全国世論調査（電話）を実施した。次の首相を事実上選ぶ自民党総裁選が17日に告示されるのを前に、新総裁にだれがふさわしいか聞いたところ、河野太郎行政改革相が33%と最多で、石破茂元幹事長が16%、岸田文雄前政調会長が14%、高市早苗前総務相が8%、野田聖子幹事長代行が3%だった。

総裁選への立候補を表明、あるいは検討している5氏の名前を挙げ、選んでもらった。「この中にはいない」と答えた人は20%だった。

支持政党別に見ると、自民支持層では河野氏が 42%で、岸田氏 19%、石破氏 13%、高市氏 12%、野田氏 1%だった。無党派層では、河野氏 28%、石破氏 17%、岸田氏 11%と続き、高市氏 6%、野田氏 5%だった。

次の首相に最も必要なものを 4 択で選んでもらったところ、「実行力」が圧倒的に多く、64%。「誠実さ」15%、「発信力」10%、「政治信条」7%の順だった。「実行力」を選んだ人のうち 38%が河野氏を支持した。

次の首相は安倍晋三前首相や菅義偉首相の路線を引き継ぐ方がよいかどうか尋ねたところ、「引き継ぐ方がよい」は 28%で、「引き継がない方がよい」の 58%の方が多かった。

退陣することになる菅内閣の支持率は 30%（前回 8 月調査は 28%）と横ばいだった。ただし、政党支持率を見ると、自民は今回、37%（同 32%）。昨年 12 月調査の 38%に次ぐ水準まで回復し、立憲民主の 5%（前回 6%）との差を広げた。「仮に今、投票するとしたら」として聞いた衆院選比例区投票先は、自民は 43%（同 35%）。こちらも昨年 11 月の 45%に次ぎ、立憲の 11%（同 15%）を引き離れた。総裁選の動きが自民を押し上げ、立憲を埋没させたとみられる。

〈調査方法〉コンピューターで無作為に電話番号を作成し、固定電話と携帯電話に調査員が電話をかける RDD 方式で、11、12 の両日に全国の有権者を対象に調査した。固定は有権者がいると判明した 1042 世帯から 575 人（回答率 55%）、携帯は有権者につながった 2027 件のうち 902 人（同 44%）、計 1477 人の有効回答を得た。

「次期首相に誰がふさわしいか」 メディアが生む心理的連鎖 NEWSポストセブン 2021 年 9/11(土) 7:05 配信

臨床心理士・経営心理コンサルタントの岡村美奈さんが、気になったニュースや著名人をピックアップ。心理士の視点から、今起きている出来事や背景や人々の心理状態を分析する。今回は、菅義偉首相の突然の退陣表明で、大きな関心を集めている「次期首相」の行方について。

* * *

菅首相の突然の総裁選不出馬表明から、テレビや新聞はこの話題一色。8 月に 26%まで落ち込んだ内閣支持率とともに、自民党支持率も 32%まで低下していたのに、最新の世論調査の結果では、なんと自民党支持率が 36%にアップしているのだから驚きだ。自身の政治的手腕やリーダーシップが招いた批判の数々や支持率低下は一旦横に置き、党の役員人事に内閣改造、総裁選出馬へと、これまでと違う意欲と動きを首相が見せる度に、我慢を強いられてきた国民心理は冷え込み、支持率もみるみる落ちていった。横浜市長選の惨敗もあり、「菅首相では選挙は勝てない」という意識以上に、党内では菅離れが進んでいたことが露になった格好だ。「二階外し」と騒がれたものの、重鎮である二階俊博幹事長の交代も現実となりそうだ。菅首相のこの動きが功を奏し、自民党はこれからどうなるのか、どうするのかに注目が集まった。「利用可能性ヒューリスティック」が生じたからだ。人は、目に付きやすい情報や印象的な事柄、繰り返される報道ほど思い出しやすくなるという。だが、思い出す、思い浮かぶだけでは自民党の支持率は上がらない。変わるきっかけとして、流れ

を変える機会が必要になる。支持率が落ち続ける首相が権力闘争に意欲を見せておきながら、諦めか挫折か、どちらにしる突然の不出馬を表明。これぐらいのサプライズがなければ世間もメディアも驚きはしなかったし、自民党内にある現状への危機感も伝わらなかっただろう。

総裁選では誰が出馬するのか、派閥の動きはどうなるのか。誰が誰を支持するのか。票を巡る駆け引きについて、連日のようにメディアが追いかけ、情報番組では政治評論家やコメンテーターが各々の見解や意見を披露する。出馬を表明した政治家情報は嫌でも目にするし、関心が無くても自然と耳に入ってくる。繰り返してメディアで取り上げられれば、人々の注意や関心はおのずと高まる。メディアの報道が選挙を左右するのは明らかだろう。“次の首相に誰がふさわしいか”という緊急世論調査では、河野太郎行政改革担当相がトップ、次いで岸田文雄前政調会長となった。だが、今後の報道によってはどうなるか分からない。好意的な報道が流れるほど、「次期首相はこの人」というムードが作られ盛り上がる「利用可能性カスケード」という心理的な連鎖反応が起こるからだ。メディアの報道如何によって、候補者に対するイメージや好感度、期待度は変わってくる。特に総裁選は通常の選挙のような公職選挙法が適用されず、報道に厳しい制約も無い。さらに、今回は前回のような簡易型の投票ではなく、党员投票も行われるため、それを報じる各メディアの姿勢や視聴率による影響も大きい。自民党は総裁選を巡り、29 日の投開票まで「公平・公正な報道」を新聞・通信各社に要請した。だが、自民党としての思惑もあるはずで、あからさまには出来ないものの、いかに利用可能性カスケードを上手く利用するのが選挙の勝敗を左右するのも事実だろう。このバイアスを利用して国民にとってより、党にとって有利な方向に総裁選が進まないことを願うばかりだ。

野党第一党の立憲民主党 世論調査での政党支持率は 7%で自民党の約 5 分の 1

女性自身 2021 年 9 月 10 日 6 時 0 分

ざっくり言うと

総裁選を巡り、立憲民主党の動きが加速していると「女性自身」が伝えた

しかし読売新聞による世論調査では、同党の政党支持率はわずか 7%だそう

新型コロナ対策で失策続きである自民党の 36%の約 5 分の 1 だと筆者

菅首相は退陣も支持率は 1 桁台…政権交代にほど遠い立憲民主党の存在感

女性自身 2021 年 9 月 10 日 6 時 0 分



《政権が代われれば、政治が変わります。政治はやる人間によって必ず変わります。私の信念です》

9 月 8 日、Twitter でこう宣言したのは立憲民主党の福山哲郎幹事長（59）。

菅義偉首相（72）が9月3日に自民党総裁選不出馬の意向を表明して以来、政権交代に向けた立憲民主党の動きが加速している。3日、同党の枝野幸男代表（57）は会見で、内閣がレームダック状態（死に体）であると指摘した上で、「総理も無責任でありますし、またこうした状況を作り上げた自民党全体に、もはや政権を運営する資格はない」と政権与党の自民党を激しく批判。蓮舫氏（53）や安住淳国対委員長（59）は、連日、国会を招集するよう政府・与党に厳しく呼びかけている。

7日には、「政権交代した場合の初閣議で直ちに決定すること」とした7項目を発表。7項目には、生活困窮者への現金10万円給付といった、新型コロナウイルス対策として30兆円以上の補正予算を編成することやコロナの対策司令塔を設けること。さらに「日本学術会議人事で任命拒否された6名の任命」や「赤木フアイル関連文書の開示」といった、自民党政権下で起こった数々の問題についても取り組む姿勢を見せていた。

勢いを増す立憲民主党だが、世間の評価は追いついていないようだ。9月6日の「読売新聞オンライン」によると、同社が行った最新の世論調査では、野党第一党である立憲民主党の政党支持率はわずか7%。これは新型コロナウイルス対策で失策続きである自民党の36%の約5分の1だ。

また、連日メディアで報じられている自民党総裁選がさらなる逆風となっているようだ。

「コロナ対策の遅れや長引く緊急事態宣言によって自民党はかなりの打撃を受けていますが、総裁選によって国民の注目を一手に集めているのも事実。実際、菅首相の“退陣表明”以降、立憲民主の議員がメディアで取り上げられる機会は大幅に減少し、総裁候補たちの去就ばかりが報じられています。

今の自民党政権は断じて100点ではありませんが、野党第一党である立憲民主が具体的かつクリティカルな政策を提案できているわけでもありません。SNS上では自民党のしたこと“ただ噛みついてるだけ”という印象を抱いている人も多く、今、求められているのは具体的なビジョンをきちんとした言葉で示すことではないでしょうか」（全国紙政治部記者）

自民党総裁選後には衆議院総選挙が控えている。果たして、それまでに野党第一党の“意地と誇り”を見せつけることはできるのか――。